

製品名: Dok-2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10106

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	DOK2
別名	DOK2; Docking protein 2; Downstream of tyrosine kinase 2; p56(dok-2)
遺伝子 ID	9046.0
SwissProt ID	O60496
免疫原	抗血清はヒト p56 Dok-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 266-315

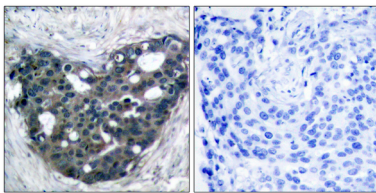
背景

ドッキングタンパク質 2 (DOK2) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、慢性期の慢性骨髄性白血病 (CML) 患者から単離された造血前駆細胞において恒常的にチロシンリン酸化されている。これは、CMLに関連するキメラタンパク

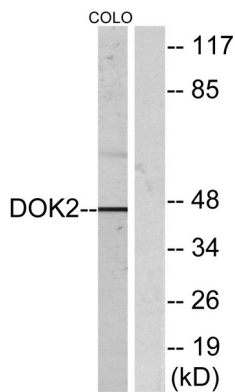
質である p210 (bcr/abl) の重要な基質である可能性がある。このコードされたタンパク質は、CML細胞の p120 (RasGAP) に結合します。[RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン: PTB ドメインは受容体相互作用を媒介します。機能: DOK タンパク質は、酵素的に不活性なアダプターまたは足場タンパク質です。これらは、多分子シグナル伝達複合体の組み立てのためのドッキングプラットフォームを提供します。DOK2 は、IL-2 および IL-3 だけでなく、IL-4 によって誘導される細胞増殖を調整する可能性があります。Bcr-Abl シグナル伝達の調整に関与している可能性があります。EGF 刺激による MAP キナーゼ活性化を減弱させる。PTM: 免疫受容体刺激により、C 末端チロシン残基がリン酸化される。Tyr-345 のリン酸化は NCK の SH2 ドメインへの結合に必要である。Tyr-271 と Tyr-299 の両方のリン酸化は RASGAP との相互作用に必要である。類似性: DOK ファミリーに属する。タイプ A サブファミリー。類似性: IRS 型 PTB ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。サブユニット: リン酸化 RASGAP および EGFR と相互作用する。RET および NCK と相互作用する。組織特異性: 末梢血白血球、リンパ節、脾臓で高発現する。胸腺、骨髄、胎児肝臓では発現が低い。

研究分野

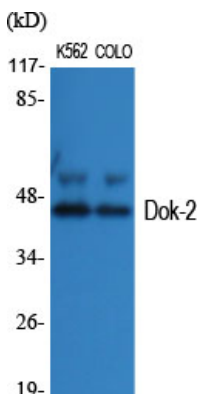
画像データ



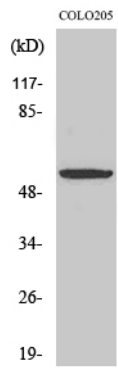
p56 Dok-2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COLO205 のライセートを p56 Dok-2 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



Dok-2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



Dok-2 ポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析